

産科医療関係者の皆様へ

# メトロイリントール使用フローチャート

1

## 使用にあたって要約等を確認する

- 適応、方法、主な有害事象（「臍帯脱出を発生した事例が存在する」ことも含む）などについてのインフォームドコンセントを得る。
- 入院時または入院後に実施する。
- 緊急帝王切開が行えることを確認し、また異常時の対応についても考慮した上で使用する。
- 子宮収縮薬を併用する場合は、挿入時から1時間以上分娩監視装置による観察を行った後に投与を開始する。

2

## 挿入前に経膈超音波断層法により臍帯下垂がないことを確認する

### 臍帯下垂がある

- メトロイリントールは使用しない。■急速遂娩など対応を検討する。

### 臍帯下垂がない

3

## メトロイリントールの挿入

- 特に前期破水などの場合は感染徴候に十分注意し、体温測定、血液検査等を適宜行い、抗菌薬の併用も考慮する。

滅菌水注入量=41mL以上

滅菌水注入量=40mL以下

4

## 分娩監視装置による連続的モニタリング

- 原則、連続的モニタリングを行う。

4

## 連続的モニタリングまたは間欠的胎児心拍数聴取

- 陣痛発生時は速やかに分娩監視装置を装着する。

## メトロイリントールの脱出

5

## メトロイリントールの脱出後には臍帯下垂・脱出がないことを速やかに確認する

- 内診（腔鏡診） ●経膈超音波断層法 ●間欠的胎児心拍数聴取または連続的モニタリング

メトロイリントール脱出後、時間が経過しても臍帯下垂・脱出が起こることがあるため、定期的に観察する。特に妊産婦を移動させた場合は、移動後に臍帯下垂・脱出がないことを再度確認する

臍帯脱出を確認した場合は、急速遂娩を行う。それまでの間の対応として、臍帯の圧迫が軽度となるよう以下を行う。

- 内診指による胎児先進部の挙上 ●妊産婦の骨盤高位や胸膝位
- 臍帯還納の試みは勧められない（臍帯血管の攣縮を誘発する可能性がある）。

※「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」を参考に、産科医療補償制度再発防止分析対象事例からの教訓として取りまとめた。

この情報は、産科医療補償制度の「再発防止委員会からの提言」をもとに、日本産科婦人科学会および日本産婦人科医会、日本医療機能評価機構が共同で取りまとめたものです。

制度の詳細および本提言につきましては、産科医療補償制度ホームページ(<http://www.sanka-hp.jcqh.or.jp/>)をご参照ください。